岳精流日本吟院

ちよだ

第４３号

平成２４年９月

千代田岳精会弘報

平成二十四年岳精流指標

清新の気

「ワンモアー」をもう一度！

会長　鈴木　龍成

昨年のあの夏も猛暑でしたが、やはり今年も厳しい暑さが続きました。“節電”をはじめとする私達の生活スタイルの変革が求められていますが、これからも「自然との共存」の在り様が問われていくことでしょう。

この中にあって、会員皆様の元気な吟楽活動が続けられていることは、ご同慶の至りです。

今年も早や、八か月を終えようとしていますが、年間の棹尾を飾る「平成廿四年度温習会」（グループ別）の開催が間近に迫ってきました。A・Bそれぞれのグループが独自の企画のもとに取組んできておりますが、共通の理念として、新しい会員を中心に全員参加の考え方が貫かれており、その実現が大いに期待されるところです。この夏開かれたオリンピック大会がそうであるように、参加し、楽しむことに意義があるのです。平素の吟を伸び伸びと発表し合う機会にして下さい。

千代田岳精会には、今年一層の前進を目指して“ワンモアー”（もう一歩）をお互いの合い言葉として取り組んで来ております。打ち出した提案は左記のとおりです。

○教場体制強化年＝
　“行くのが楽しみ！
　逢うのが楽しみ！
　吟ずるのが楽しみ！”

○「吟友呼び」キャンペーンの継続展開＝三〇周年三〇〇名！

○教場内担当役割の効果的設定と組織化

○明るい教場づくり＝教場参加を促進（遅れない、休まない）

現在のところ教場によってその成果に差が出ているように見受けられます。「吟礼」に始まる教場研修が行なわれていますが、そこにもピリッとした雰囲気にやや差があるようです。遅参や私語など、教場の規律を損なう要素は、一時も早く改善したいものです。明るい教場、新しい吟友を呼びたくなるような教場はみんなで作り上げるものです。もう一歩の前進ができる教場がそこにあるのです。

教場運営にも、もう一工夫が欲しいと思われる教場がありそうです。新しい吟友の導入に苦労しているところも、今の会員同士が手を携え合えるようなたらどうでしょう。「役割分担」の組織化をやってみてとところで、今年後半から来年にかけて、千代田として新たに取組もうとしている事項があります。それは、このほど岳精流統本部が打出した「課題別プロジェクト」への参加です。具体的には、「無料講習会の実施」です。講習会の実施方式、内容はこれから練っていきますが、これを機会に、新しい地域での吟友候補との出会いが期待できますし、新しい会員導入に、何とかという教場にとって良いチャンスだと思います。これについては、業務推進委員会（山口隆風委員長）を中心に企画、推進を行なっていく予定です。ご理解、ご協力をお願いいたします。

先ず、居住地域に会員勧誘のチラシを配る努力、同窓会、会社OB会で声かけする努力等々、拝聴する会員の皆さんの会員増強へのご努力には頭が下がります。これらの地道な努力が必ず実を結ぶと信じたいと思います。

創立三十五周年

全国吟道大会

「日本　東北　岳精流　がんばろう！」

故昨年は、東日本大震災で福島原発事故と吟道大会が川崎市教育文化会館で二年国い二重の開催となり、全国から一五〇〇名近いの会員が参集しました。千代田も流統一九一名となる地元会として盛会を願って支えこれ迄最大の参加申し込みでありました。

弾幸雨の晴間、全国から集う会員では開Jいの急の駅から会場へ、またバス今む扉Rい梅京の入り口は二年振りの再会に回声前・の溢れて、復興まだ緒に付いたので大会は、思いを籠めた企画でばかりの東北への思いを籠めた企画で会場に、川崎市へ避難されている方々も会場に招待されていた。

十名今年の合吟コンクールは女子チーム全員が出場したが、一番と女子合吟と出番が近く、順番が地下通路を息切せつけ身繕いの時間も無駄くを登壇といい駆けつけ身繕いの時間も無駄くも入賞には厳しい条件もあり、惜し代田地元各会、支部がない条件もあり、惜し一日は進行係を初めて担当した。運営で台裏方として汗を流したし、舞台裏や音響、照明等にも協力したほか、舞台で整然と滞りなく進んだ。いつもご苦労さまでした。

全国吟道大会感想

ハザマ　三島　寿

本年一月に入会した者には、大会の規模・霧囲気が如何なるものか想像だに出来ず、不安と期待の当日であります。会場に入り、設営をはじめとする準備、進行などの運営に、事前の努力に感嘆いたしました。

会が始まり合吟、コンクール、寿栄合吟の方々の声量、役員、吟詠、構成吟の皆さんの完成度の高さ、特に女性の声の美しさに聞き惚れました。

自身は、上手な人の吟を聞いて、ろ、盗めと言われていらいすの皆さん合わせて、わっ声になら合吟にせ加て、大いなまだ一強層精進のい必要性を痛感しました。そして勉声で会場かん一日が大変楽しく、充実できたこ難とが今後の励みになりました。誠に有ございました。

吟の奥深さに感銘！

丸の内第二　鎌田　国雄

五月の連休明けに、先輩の蒐場さん開の催勧めで人会。間もない六月廿四日に催される全国吟道大会に先輩の勧め今後の参考のため少し見学して見たい気持ちもあり参加することにしました。

川崎殆ど吟詠の経験もなく不安でしたが、加の岳駅に着いたら一目で判る大会に参すごい精大会なんだなーと気持ちの昂ぶる見て、大会会の人達が大勢いるのを感じました。会場に到着し、開演を最初の全員での「真善美」の朗

次の持ちの岳精会会詩の合吟で、プロが高揚し感じます。気グラムまが進てくる。ありたみ、初の愛好を過ぎ多い方ましこと年が、齢、小めを学て聴き、宗家に迫力と味の吟この者吟を聴き、とでたみ、くら吟九ばか奥深さに感銘する。

吟山陽道吟行記」。唯々、驚き関係なかく吟しました。

「とばかりを聴き、宗家の激構成ともを楽し更にむこの吟とも

この初終了後、教場の慰労会が対面の分室の方々と杯を飲み、多数の参加楽しの過ごし下した日み交す教場長大会はじめ、宗家先輩方に感謝申し上げる口出会と出肝銘じ、言葉を伝えます。

いつの日か四国八十八か所を

中野　湯浅　和美

大会に初めて参加しました。宗家は全国吟道先生の味わいの深い堂々たる吟集され接し感動束ねて思い出を生き生きと蘇る。

鳥肌が立ちました。岳精流全国吟道先輩諸の良き宗家に応えるべく、大会運営を肌で感じ、今こそ、何かを求めて人間成長の組織力、そして結束の輪を顧みる。

「しみじみ思う。

「恩師へ改めて考えさせられました。

思えば人会間もない頃、我が家のす
ぐ近くの禅寺「大洞院」で柏の作詞家
丘灯至夫先生を讃える詩、吟
いに参加するご縁があり、先・歌声の集
本を愛す」「日本人」「野生の「日
吟じられ、宗家から「日本賛歌」が
室でご指導頂いている村上常任顧問から
ら「平泉懐古」の吟を拝聴するこ分
出来、妻共々大いに感激しました。詩
吟に出会える幸運を下さった徳本教場
長、ご指導頂いている諸先生に感謝し
つつ、お陰さまで準優勝出来ました都
総連合吟コンクールでの心地よい緊張
感を忘れずに、今後とも吟を学んで参
りたいと思います。そしていつの日か、
宗家の「先生あるいて来ましたいつの
いつつの郷里の四国八十八か所を吟じな
がら通しで巡礼したいと思っておりま
す。

初めての全国吟道大会

熊谷分室　大藤　征子

発足一年目の熊谷分室から七名での
初参加です。会場に入るなり、舞台左
右に二十の会旗が目に飛び込みました。
家元・宗家ご隣席のもと、北海道から
沖縄まで網羅する一五〇〇名の一員
として認識を、その場で実感しました。
千代田岳精会女子部の第一部三
十六番目「春夜」の合吟を終えた後、
出吟者の気迫と豊かな声量で趣ある吟
詠に我を忘れて聞き入りました。九本
の吟は憧れの的でした。寿栄者や幼小
年を囲んでの登壇者からは深い優しさ
の味わいが、合吟コンクールでは淘
の技量を競う様子が感じられました。汰
最終第八部の構成吟では、宗家の恩師

原精龍先生への報恩、原点を探る道程
を切々たる情で包む様に流れて、私の
胸に響きます。
岳精流の理念「真善美」を各地で広
める吟縁者にお目にかかれ、その中で
も千代田“に在籍出来たことを感謝
申し上げます。

全国吟道大会に参加して

東陽町　伊藤　正雄

この三月、鵜飼先輩のお勧めで東陽
町教場に入会させていただきました。
真善美“教室開始時、吟礼で唱和す
ることの言葉に回を追うごとに引込まれ
ている様な気がしてきました。
全国吟道大会に参加して千代田男子合
「清明」を壇上で吟じましょうと教
吟場あげてのお誘いもあり、出席させて
頂きました。当日ＪＲ川崎駅へ指定時
間に遅れないよう着くと、教場長はじ
め先輩方が時計塔の前で待っておられ
ました。全国に組織があり北海道から
沖縄まで五〇〇名の方々が会場に
参集されると聞き、規模の大きさに驚
きました。大会の運営等も手際よく
進行されると、洗練された立派な詩吟の会
であることを知りました。
愈々千代田男子一四名の登壇と
感動、舞台の一員に加えて頂いた感謝と
敬服、諸先輩が力強く吟じ違いない姿に
素晴らしい所懸命にいじよ
各組とも第二部で合吟コンクール
で吟じ一つ発声で一糸乱れず、
圧巻はいもの。横山精真宗家の「山
の道第八部、と感じました。一、三〇〇ｋと
吟行記」でした。

全国吟道大会に初参加して

日暮里　吉田　節子

吟とは何やら全く解らず、誘われる
ままに日暮里教室の家族的雰囲気の中
でスタートして早や一年。昨年の廿五
周年大会、緊張感漂う中での昇伝審査。
その度の全国の諸先生の講習会、そしてこ
れぞれの全国吟道大会にも参加させても
らう度に、少しずつ吟というものが解かる
ようになってきました。
特に老若今回は熱のこもった全国大会だ
けあるとは言え、わず参加する事に意味
があった堂々と皆様の実力の深さと、
女性子供達吟ずる方々の若さ
で拝聴、ご年配の格別な思いき
全れの諸先生さ方せて頂き圧倒され
した。宗家の第吟八部まで普段お目にかか
するとなかの構成吟に改め感動
りすばいかりで、器の一頑張
おりとるこれ小さ反省
持願いたしこれをと
参しいかなあ～。
ようたします。
次回にはご指導を
双眼鏡を

事の旅程を一年半かけて完結されたとの
し「西に師父あり」と仰ぐこと窮りなく
入り、言葉を表わす中に先達の名吟が
朝九時、眼に涙して感動しました。
強し先輩方の勧めで出席させて頂きました。
た事は全国吟道大会、これ経験から詩吟を勉
いご参加させて大変有難し
ざいます。意義な事で宜
ました。今後とも有難
お願

女子部研修会開催

千代田の女子会員が六月現在で、丁度一〇〇名の大勢力となりました。これを機に、女子力を結集しようと女子部研修会が開催されました。当日の内容について主催の菅原龍琴副会長から寄稿いただきました。

女子部研修会一〇〇名が参加

女子部部長　菅原　龍琴

去る平成廿四年五月廿五日、なかのゼロホールで奥村龍曄先生をお迎えして女子部主催による「第五回女子部研修会」を開催いたしました。開催に当たり鈴木会長から趣旨と重要性についてのご挨拶がありました。

出席者は総勢一〇〇名、女子七十三名、ゲスト参加の男子廿七名と多数の方の参加に感謝申し上げます。

講師の奥村先生には長時間に亘り、絶句「春夜」蘇軾作一題、俳句「手折らるる…」「名月や…」其角作二題、吟詠全般に亘りご講義頂きました。無伝者は五〇名程度ですが、熱心に聞き入っており、先生の微に入り細をうがつご指導に、皆感動しておりました。

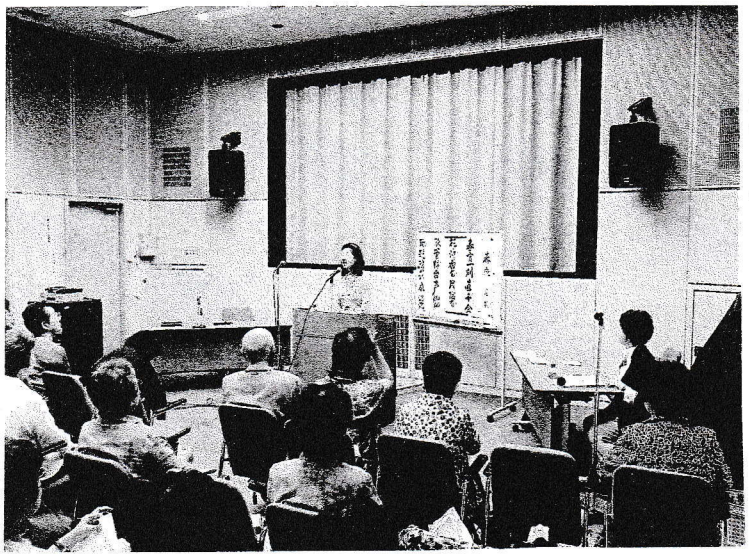
各教場から指名された方の吟詠に対し、熱心な実技指導が行なわれ、吟詠中の態度やマイクの使い方、発声等多岐に亘る素晴らしいご指導は参加者の心を熱くし、やる気を与えて戴き、研修会は予定どおり終了しました。

懇親会はもみじ茶屋に移り、和やかな雰囲気で楽しいひと時を過ごしました。磯田常任顧問による奥村先生への謝辞、そして女子部役員全員が並んでの閉会挨拶で散会となりました。

今回は、女子部副部長、各教場リーダーの皆さんのご協力により、午前中の会場の準備作業など大変ご苦労をお掛けしましたが、女子部の心が一つにまとまり、開会時刻に間に合う事が出来、お陰さまで無事盛会裡に終了することが出来ました。

ゼロホール予約は、毎回清水教場の村上常任顧問にお世話になり、また、中野分室の皆さまには最後までご協力頂きました。村上先生の奥様には毎回吟題を書いて戴いておりますが、筆文字が素晴らしいと会場の皆さまから、お誉めの言葉を頂きました。

この稿をお借りして改めて奥様にお礼申し上げます。



創立三十五周年
東京都吟剣詩舞道大会で準優勝

東京都吟剣詩舞道総連盟の創立三十五周年記念大会が、六月十日（日）港区三田の笹川記念館で開催され、一チーム二〇名の区連代表二四団体が参加しての合吟コンクールが行なわれた。

千代田では港区男子が「桑乾を度る」賈島作、品川区女子が「富士山」石川丈山作に所属の会員が出場した。特に男子は十一月出場の全国吟剣詩舞道大会と同じ吟題で、ここで弾みをつけて、いざ本番と位置づけ二〇名が出場した。初舞台が大半を占めていたが臆せず、懸念された乱れも少ない納得の出来で、上位入賞を期待のところ結果発表で準優勝、男子のトップと想定以上で出場者から大歓声が揚がった。これで、全員の武道館への意識が更に高まり今後の結集が期待される。

なお、品川区も堂々の四位と貫禄の好成績でした。

◎港区出場者

八田仁風、前原秀山、蒐場一泉、川口童泉、森田準泉、小山洋三郎、権藤紘一（丸二）高橋辰風、犬飼亮山（鎌倉）宮野幸夫（東陽町）勝村忠泉（神楽坂）船津英泉（清水）小蔦正弘、湯浅和美（中野）萩原晴山、石田勝泉、犬飼勇泉、松尾宝泉（ハザマ）植村太風（鎌ヶ谷）西山定山（市川）

◎品川区出場者

菅原龍琴、山手遥山（丸女）

自作自詠俳句研修会

句集「湧水」創刊

平成廿二年四月発足の自作自詠俳句研修会（橋本隆泉リーダー）は、毎月第二火曜日に、湯山・前田顧問やリーダーを指導役として俳句入門レベルからスタートして二年となり、メンバーの技倆は格段に向上、このたび、全員の発句を載せた句集「湧水」創刊のはこびとなりました。

「ちよだ」では記念して全員から一句掲載しました。今後一・七月の年二回発行が予定されています。

なお、九月十一日（火）には第二回吟行会を、目黒の国立科学博物館の附属自然教育園で開催するとの事です。

人待ちて葉桜の街灯るなり　池田　蓮花
笹鳴きの稚拙が嬉し妻と聴く　磯田　烏城
ふくらみし木々の若芽の春めける　稲垣　ひさ
名刹の庭にあじさい花揃う　鵜飼　輝夫
山門の扁額霞む梅雨の朝　川口　童人
走り根につまずきもして花をみる　河合　朝香
門松の男結びで飾りけり　菊地　利広
水温む光あまねし田に満ちて　久保　合風
行く先は告げず目深かに冬帽子　小林　明山

生けるものみな芽吹きあり春動く　鈴木　陵人
川底に魚影の跳ねて水ぬるむ　徳本　順治
林中の土留めの丸太梅雨茸　橋本　千舟
咲き誇る辛夷の白き休館日　八田　玄猷
手をひかれ歩む池辺は春爛漫　林　如泉
読み初めや江戸豆腐屋のものがたり　藤原　壽
鯉のぼり高さを競う電波塔　本多　弘輝
鶯の初音を旅の宿で聞く　本多　桜子
門前の朝市八重の木瓜の花　細川おさむ
とろけそう春眠にゐる猫の腹　前田　道人
水ぬるむ長靴ばきの侍従職　三須いくよ
身構えし鶯の黄足や水温む　耳塚のぼる
坪庭の土を擡げし霜柱　湯山得自楼

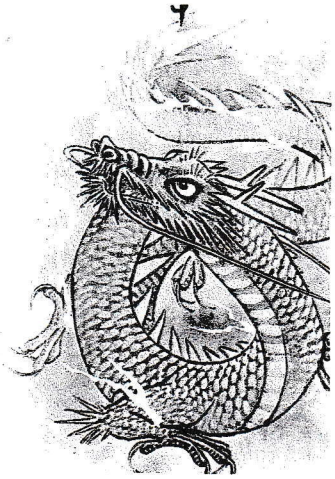
『随　筆』

龍の指は何本？

丸の内第二　本田　はじめ

今年、平成廿四年、西暦二〇一二年は辰年である。年賀状にも龍の絵や字が入ったものが半数を超える。

訪ねて来た孫が年賀状の片付けを手伝いながら、ふと「おじいちゃん！龍の足の指が三本のだとか、四本のだとか、五本のだとか色々ある、何本が正しいのかなぁ？」と言う。成程、色々だ。そこで分類してみた。届いた六五四通の賀状で、干支の辰を意識したものは、四〇三通（六一％強）で「龍」や「辰」の字やタツノオトシゴ等を除いて、龍の絵を描いたもの二九二通となった。次に足を調べると、指二本のもの四通、三本一一五通、四本四五通、五本一二通、この他に頭だけとか、体だけで足が描かれていないもの一一六通だった。指の数だけでみると三本が六五％を占めていた。



龍というのは想像上の動物だから何本でもいいようなものだが、どうしてこんなに違うのか調べてみた。

龍の発想は印度らしいが古代印度の龍彫刻は五本指である。中国では、古代壁画や器物の龍は五本、四本、三本とバラバラである。日本のお寺の天井絵や掛軸の龍は、三本か四本の指しか無い。豊臣秀吉が明の万暦帝から貰った「日本国王に封ず」という詔勅の表装の龍は五本指だという。

さらに調べると中国では、龍は天子のシンボルとされていて、天子の顔を龍顔といい、天子の車や衣類に龍の紋

様が使われるようになったが、干支であるから、民間でも絵柄・図柄に広く使われていたらしい。そこで、宋の時代一〇九八年頃禁令が出されて、人民は勝手に龍の紋様を使ってはならぬこととなったという。そして、天子の龍は「登り龍」で二本のツノと五本の指という形に決められた。それ以外の下り龍や指四本以下の龍なら大目に見られたらしい。

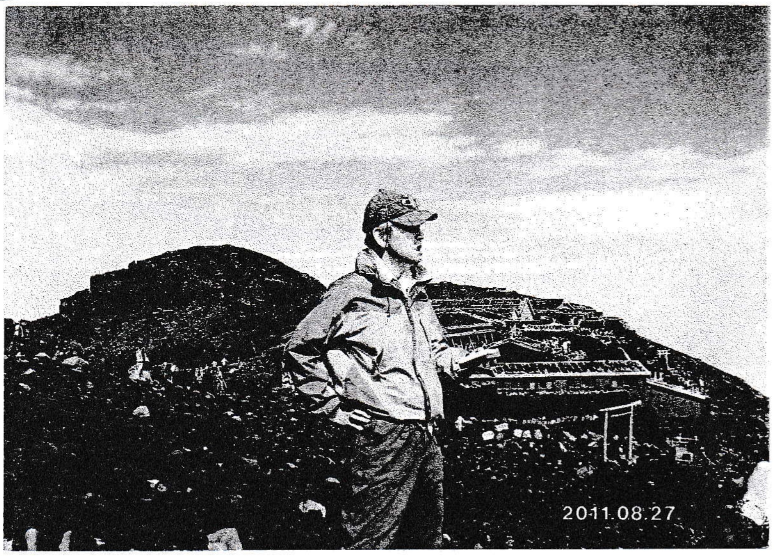
元の時代になると、はっきりツノ二本指五本の龍は天子のみが使い、民間の使用は禁止し、清の時代になると五本指の龍は天子のみが使い、それ以外は、指を減らせば「うわばみ」だからよしとされた。「うわばみ」とは錦蛇や王蛇のような大蛇を指す。朝鮮王朝は、国王の用いる龍は四本指と定め、民間では三本指しか許されなかった。中国に遠慮したのであろう。

日本の龍は、五本指で作ったり、描いたりしてもよかったのだが、中国や朝鮮から伝えられた龍が本物どおりと思い込んで、三本指が主流になったらしい。ということで孫の疑問は一件落着した。日本では、五本指の龍にしましょう。

富士山頂にて「富嶽」吟詠

中野　小蔦　正弘

二〇一一年八月廿七日（土）奇跡的な快晴の中「富士山頂吟詠」を実現することが出来た。前日から天候が悪く吉田口登山道七合目辺りから早々の雨中登山となり八合目の山小屋に午後七時到着、夕食。明朝のご来光は無理と思えるし、もし雨だったら下山と気弱に考えながら仮眠する。



朝五時頃小屋の人の「ご来光」との声で外に出る。寒空の中、東方雲海の先から登ってくる日の出を見て「念願の山頂吟詠だ」と朝食をしっかりとって登頂開始。一面の険しい岩場を二時間ほど登り山頂に到着。お鉢めぐり、奥社参拝、高齢登頂者名簿に記帳などを済ませた後、未熟なコンダクターは前後奏のみで「富嶽」乃木希典作を快晴の富士山頂から雲海を眼下にして吟詠。風が強く気圧も低いためか、声がやや弱かったのが残念ではあったが、無事吟じ終えた。下山開始の頃からまた天候は一転し視界不良、強い土砂降りの中の須走りルートの下山になった。山頂吟詠はまさに貴重な想い出となった。

七〇歳を機に始めた富士登山三度目では「富士山頂吟詠」を決意し、教場の村上、徳本先生に「富嶽」のコンダクター指導をお願いし重い荷の中に入れて登頂した。「説くを休めよ区区風物の美」の詩心実感、八州を望み爽快な気持で吟じた達成感は何物にも代えがたいものとなった。後日鈴木会長のご指導が中野分室であり「山頂吟詠テープ」を披露した折、記念に寄稿してはとのお声を頂いた。

皆さんが秀峰富士を眺める折があれば、山頂で吟じた吟友がいたと思って頂ければ幸いである。

区連コンクールのトロフィー

丸の内第二　八田　仁風

詩吟を習い始めて以来、挑戦を続けていた吟詠コンクール、お陰さまで目標の一つであった港区の優勝トロフィーを手にすることが出来ました。

岳精流とは異なる節調やアクセントを全く理解せぬまま臨んだ初期は壁にはね返される繰り返しでした。これを乗り越え、伴奏のＣＤを全て聴いて６番と決め、吟題も力吟から年齢相応の詩情の出せるものを選ぶことにしました。声の高さも数年前から二本に下げて力みを抑えました。

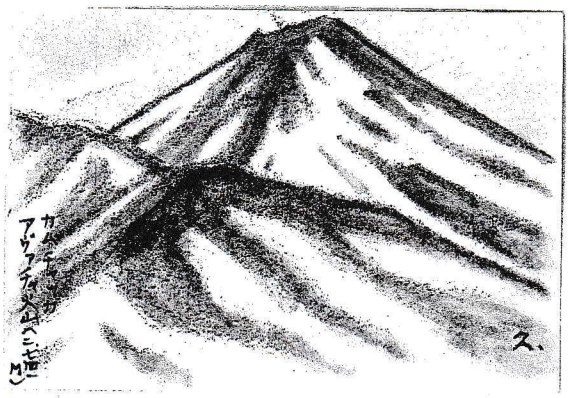
今年選んだのは最も馴染みある吟題の一つ「元二の安西に使いするを送る」節調が岳精流と異なるため、手直しはありましたが、誤読の懸念は全く無く正確な読みと詩情に重点をおき自室や風呂の中で調子を整えました。ところ

が十日前に風邪で声が全く出なくなり、三日前にやっとコンクールモードの声に戻ったが、むしろ力みを抜く効果があったとは後での感想。

今回、教場から十三名出場。初入賞が二名、当然入賞と推測したが、その人が外れる想定外もありました。その中で最後に登壇し、吟じていました。回数も重ね審査のポイントも承知していましたので、マイクイ調整、姿勢、目線など確認しながら伴奏に合わせ詩情を込めて吟じ終えることが出来ました。

沢山下がっていたリボンには城戸稲風さん三本、渋谷辰風さん二本、中川春風さんと先輩方が名を連ね、千代田の伝統が守れたとほっと肩の荷が下りた気がしました。

の指導下さった岩崎先生、応援の沢山の吟友の皆さん有難うございました。



カムチャツカ　アヴァチャ火山

星野　久風（清水）

全国吟詠コンクール

東日本大会小林俊晴君六位入賞！

東京都大会でも四名努力賞

東京都大会は、五月三日から十九日に開催され、区吟詠コンクール上位入賞の廿一名が出場しましたが、幼少年部で小林俊晴君（東陽町）が入賞し、七月八日中野ゼロホールで開催の東日本大会へ出場、堂々六位入賞。

お目出とう！　全国大会もあと一歩という大健闘でした。

また、一般三部で城戸稲風（ハザマ）山手遥山（丸女）一般二部で片山寿風（東陽町）加藤有山（新宿）が、平素の実力を遺憾なく発揮して努力賞を獲得されました。

□千代田岳精会人事（七月一日付）

◎清水教場教場長　徳本　順風

宮武前教場長が健康上の事情で退任のため。

『新会員紹介』

◇丸の内第二教場

鎌田　五国雄氏（六月入会）

五月の連休明けの飲み会の席上、先輩の蒐場さんからの誘いにより教場に見学に来て、明るい雰囲気と、元気に腹の底から声を出して吟じている姿を拝聴し深く感動し入会を決意しました。人の出会いを大切にし精進してまいく所存です。ご指導の程宜しくお願いします。

下條信州善光寺、長野生まれの団塊の世代、信行氏（六月入会）お酒大好き人間です。古屋リクコさんの紹介で入会しました。腹の底から大きな声を出す詩吟は素晴らしい。会社生活卒業後の第二の人生の柱の一つとしたいと思っています。一日も早く一人前に吟じられるまで頑張ります。

中塩賢氏（七月入会）

十八歳の青春へ回帰した人夫妻と食に行った先で吟じられた。古屋さんが見せて下さった十八歳の時に習った偶々手元に持っていた吟譜に酷似していました。五〇年前の回帰でした。

◇東陽町教場銀座分室

清水裕美子さん（七月入会）

仕事上の知合いの本荘分室長さんの紹介で入会しました。契機は女子会の集りで、趣味についての話題の中で、詩吟教室の話があり、見学を勧められ訪問、上品で楽しく学べる大趣味とまた、全国吟道入会を決め頂き、加えて頂きました。

◇東陽町教場神楽坂分室

渡辺旭氏（四月入会）

神楽坂で教室を開いている特別な人達は同業長村さんの趣味と度入会の付合いを思い込みが、七〇歳を間近にひかえ、新しい道へ勧められ、教室のチャンス皆さんは決心し熱意ある指導を受けて健康でいたいと求めます。

磴（いしばし）巌氏（六月入会）

現在私は端唄「瓢会」の会長を務めておりますが会員数も少なく、紹介者の勝村さんを訪ね入会を勧められましたところ逆に私が詩吟を勧められ中国、日本の歴史が詩吟の中で勉強教室を見学、熱気溢れる雰囲気と、出来ますので入会させて頂きました。今後とも宜しくお願いします。

◇東陽町教場調布分室

松浦　昇氏（一月入会）

村林美恵子さんの紹介で入会しました。ボーリング、カラオケ、食事会等のお付合いの中で、調布に教室が開設され、見学のお誘いがあり、訪ねましたところ大変楽しそうに催されておりました。仕事の都合で毎回出席出来るかどうかでしたが、詩吟を勉強したい気持ちがあり入会することと致しました。

吹田　澄代さん（五月入会）

布木村喜久江さんの紹介。築地の昆問屋・小売店のおかみさんです。お二人は共通の趣味「謡曲」とスキーの仲間です。木村さんが今一番熱振るって説明、詩吟の奥深さを熱弁を入れて早速教場を見学されました。しっかりした声で入会されました。

◇東陽町教場熊谷分室

野口　芳子さん（四月入会）

落語がお好きで大変明るい方です。吟じこれからが楽しみです。

分室長とある会社主催の趣味のサークル活動で知合い、早速詩吟の勉強と入会をお勧めし快く入会を決意しました。健康維持のためにもおすすめ頂きました。楽しみながら続けていきたいとおもっています。その為にも魅力ある教室にしたいと努力します。

◇清水教場

市倉　妙子さん（五月入会）

逗葉分室宮武清水教場長の紹介で早くから分室にも顔を見せ、入会の機会を窺って居りましたが五月正式に入会となりました。天性の歌唱力に恵まれておりますので忽ち上達されていまれます。初の女性会員と期待の星です。

◇神田教場

向田　唯夫氏（六月入会）

志茂分室の広告板が下がっていました。近所の食品店入口外の植木鉢の枝当時私は本当の詩吟を求めていたのです。早速小林の公子さんとコンタクト、私の一声は「八十一歳、詩吟歴少々、音階三本、只今は杖を持って歩くく」だけでした。彼女の対応は素早く、その日の会に誘われ新宿に出かけました。教室で岳精流を拝聴、これぞ永らく私が求めていたもの、一印象で「何と力強く美しい」が、第一回目の吟題「酒に対し終わっを求められました。瞬間、生涯の或る種の厚顔に朗詠、良き日の快感にも包まれました。

◇黒澤丸の内女子教場

勇氏（五月入会）

この度入会させて頂きました黒澤原伸すこの現役の時にお世話になった菅とれはたのちゃんの奥様から強烈に勧めら会出来ました健康がキッカケ、すこと会て、また第一歩、入会の声を得ご指導賜りますお願い申し上げます。

編集後記

二年振りの全国吟道大会、広い会場を埋める全国からの会員、寿栄から幼少年まで年齢差は九十歳にも及ぶ。これは希有のもの広い年齢層に愛される習い事には一昨年の四月以降の入会の会員さんに初めての参加になるかプログラムを当てみたと幾人になる。千代田では参加間に合わなかった。申込みそ数一九一名の実に四〇%に近い。中から六名の方々に感想を寄稿頂いた。率直な表現は、編集に馴れて語彙も陳腐に陥っている小生への戒めとなった。

鈴木会長のことばにもある本部の課題別プロジェクトは、吟界全体が抱える将来への取組みです。都総連大会でも幼少年層育成の姿勢が構成吟のプログラムに表れていました。無料講習会開催　教場、地域にあわせた聞こえてきます。

の取組みも幾つかの挑戦して、直ぐに成果ができなく色々と要は、継続することです。努力は必ず良い結果ともたらします。

かが猛暑とオリンピックで睡眠不足の夏終わりまじった方も多いことでしょう。

吟を今年は二グループで趣向を凝らしました。

競う温習会も間近となりました。

新会員の皆さんの吟詠、今から楽しみにしています。（八田）